

D-7 週休2日制が家庭教育に及ぼす影響(第1報)

徳島大教育 吉成ツヤ

目的 最近、週休2日制を実施する企業が急速にふえつつあり、又、公務員の週休2日制も示唆されている。これが実施に伴い、家庭生活は直接その影響を受け、変容が予想される。この移行期をとらえ、家庭生活に及ぼす影響、とくに、子どもの教育に関する内容について実態調査を行い、将来の家庭教育のための資料を得たいと考えた。

方法 アンケート調査法によつた。調査対象は、主として徳島県内において、週休2日制を実施している企業のうち、完全実施2社、隔週実施6社について、幼児から中学生までの子どもをもつ社員を対象とした。調査時期は、昭和49年7月～8月の間で、調査用紙を配布してから1週間後に回収した。回収した分析可能なサンプル数は、完全147、隔週210である。

結果 1)とくに顕著なことは、父親と子どもの接触時間がふえたことである。中でも共に遊ぶ時間が最も多い。2)週休2日制になって「生活にゆとりができた、充実した」と考へる者は58.6%である。その結果「家族団らん、レクリエーションが多くなり、家庭のふんい気は和やかになつた」というのが31%～41%である。3)子どもに対する心的影響は、父親が家に居る時間が多くなつて「楽しい、うれしい」が36～46%、「何とも思ひない」が48～52%で、よい傾向ではあるが、一部には父親のあり方に問題があるようである。4)完全と隔週を比較すると、何れの項目も同様の傾向を示しているが、完全の方が隔週より顕著に現われていることがわかつた。